

令和7年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 10月予報

【大豆・野菜類】

ハスモンヨトウ * 病虫害発生予察注意報第5号(R7.8.4付)発表

フェロモントラップへの誘殺数は、平年を大幅に上回っています(図参照)。また、大豆ほ場における白変葉箇所数も平年に比べ多くなっています。向こう1か月の気温は「高い」と予想されているため、本虫の発生に好適な条件がしばらく続くと考えられます。幼虫は齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫時期に防除するように努めてください。

大豆では、新たな白変葉等、食害を確認したら、ただちに防除を実施してください。施設栽培では、防虫ネットを張って成虫の侵入を防ぐとともに、卵塊を見つけた時は、すみやかに除去してください。

【トマト・キュウリ】

コナジラミ類

トマト施設周辺に設置している黄色粘着板へのコナジラミ類の誘殺数は、9月下旬から急増し平年値を大きく上回っています。今後も気温の高い状況が続くと予想され、本虫発生量の増加が心配されます。そして、気温の低下とともに、施設内への侵入量も増加すると予想されます。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)、トマト黄化病(ToCV)及びキュウリ退緑黄化病(CCYV)のウイルスを媒介します。施設内をよく観察し、発病株を確認した場合は、伝染源となるためすみやかに取り除き、本虫に効果の高い薬剤によって防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期(10月)

<露地及び雨よけ(夏秋)>

作物	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
かき	カメムシ類	やや多							・園への突発的な飛来に注意する。 ・収穫前日数を確認して防除する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
トマト	灰色かび病	やや少							・サイドビニール被覆を行うと、本病の発生が助長されるため、発生に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
野菜類	ハスモンヨトウ	多							・ハスモンヨトウ 若齢幼虫のうちに防除する。 ・薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	やや少							
	アブラムシ類	並							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

<施設(冬春)>

イチゴ	ハダニ類	並							・炭疽病 発病株はただちにほ場外へ持ち出して処分する。
	炭疽病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
トマト	コナジラミ類	多							・コナジラミ類 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
キュウリ	褐斑病	少							・褐斑病 罹病性品種では発生に注意する。 ・うどんこ病 発病がみられるほ場では早期に防除を行う。
	うどんこ病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種: かき(富有)、イチゴ(濃姫、美濃娘、紅ほっぺ)、トマト(夏秋:麗夏、冬春:かれん)、キュウリ(まりん)

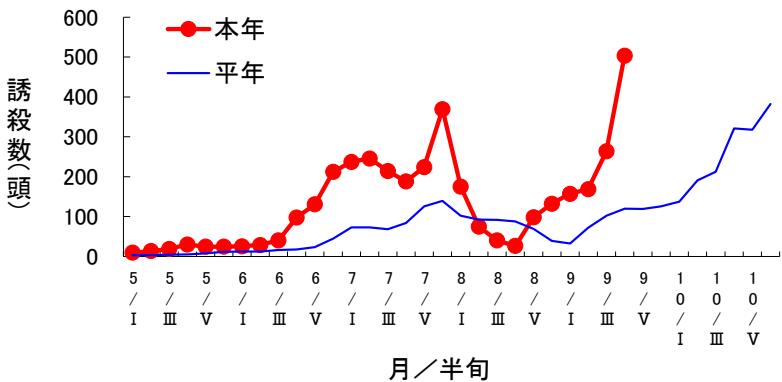


図 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移
(海津市海津町平原)

＝施設栽培の病虫害について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病虫害の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病虫害の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 9月25日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されています。暖かい空気に覆われやすいため気温は高くなるでしょう。

岐阜県病虫害防除所では、この他にも病虫害の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病虫害防除所
トップページ
二次元バーコード